

「ア、ほんなら奥さん一圓お呉んなるか」

「ハア〜あげますは」

「ほんなら奥さんが高札や、高札へ落さんと後でもめる」

「なんや頼母子みたいに云ふてるわ、サア何處へお供したんや云ひなはれ」

「アノ、へ、、、へ」

「何手を出してるね」

「一圓戴きまへるか」

「後であげます」

「後でと云ふて私が云ふて仕舞ふてから貰へんさかいにと云ふてお上へ願ふ譯にいかず、私の方は何誰はんでも皆現金で戴いて居りまんぬ」

「商ひみたいに云ふてる後であげます。サア何處へお供したんや」

「ども仕様がな、云ふて仕舞を、且さんに内密にしといとくなはれや」

「そんな事は云やへんがな」

「アノお妾はん處へ」

「アノ何か定吉、且さん妾を置いてござるのんか」

「へエー」

「ヒエ……妾には始末をせいの節約をせいのと仰つしやつて御自身はそんな贅澤な事をしてござる

ねヒエ……」

「奥さん何うでござります。妾が睨んだら間違ひはござりまへんやろう。どうでござります」

「コレ定吉妾は何處に置いたアるね」

「一圓お呉んなアレいな」

「あげますがな。妾は何處や云ひなアレ」

「一圓貰ふたら五十錢と合して一圓五十錢で矢立を買ひまんね」

「矢立位ひなんやね。妾が別に買ふたげます」

「ア、奥さんほんまに買ふとくなアるか」

「ハア〜買ふたげます。何處や云ひなアレ」

「アノナ心齋橋の大寶寺町を南え入つた處で」

「とうない賑やかな處やな。何ぞ商賣うきなひでもさしたアるのんか」

「大丸の向ひの金物屋に矢立を賣つてます」

「誰が矢立の事を聞いてます。妾は何處やと聞いているのんやがな」

「エ、どうも仕方がない皆云ふて仕舞を、鰻谷の中橋を少し東え入つた北側で張物屋のろうじ、一軒ろうじだす」

「そいで妾一人か」

「イエ女中さんと二人だす」